

オイコニアにおける

ノーリフディング実践

障害者支援施設オイコニア
副主任生活支援員 武政 弘晃

社会福祉法人 明成会

障害者支援施設

オイコニア

老人デイサービスセンター

緑林荘

居宅介護支援事業

りよくりん

老人デイサービスセンター

さくら貝

障害者グループホーム

笑和

相談支援事業所

わらわ

配食サービス

障害者支援施設オイコニアについて

高知県四万十町



仁井田米



四万十川





施設の概要

入居者数

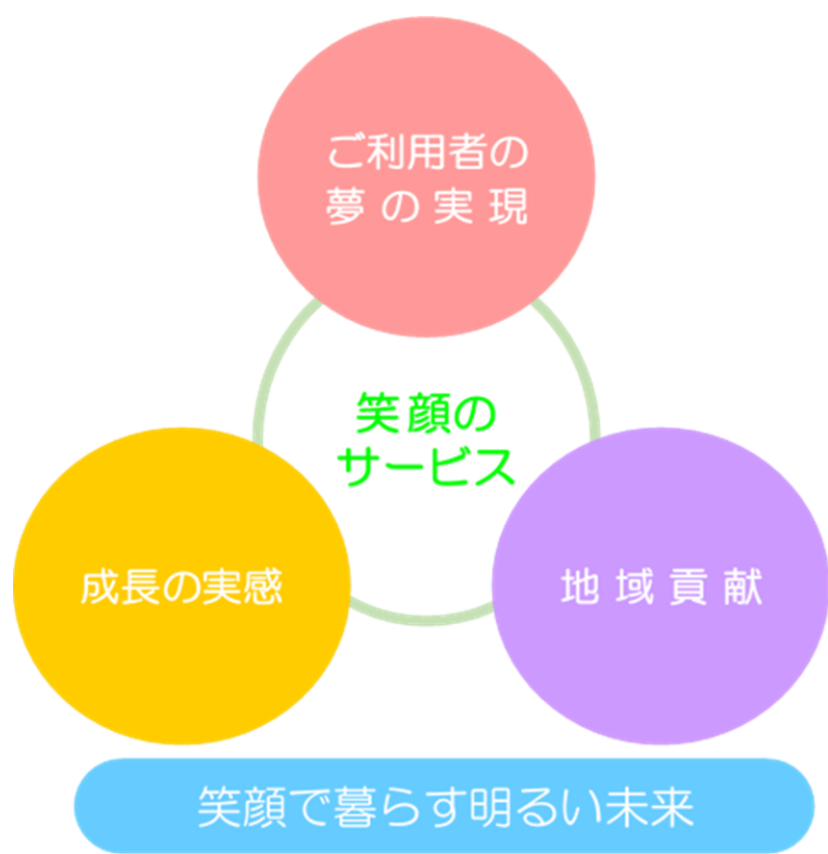
50名

障害者支援区分

平均 5.5

職種別

施設長
サービス管理責任者
管理栄養士
作業療法士
看護師
生活支援員



法人の経営理念（法人の基本とする考え）

笑顔で暮らす明るい未来

経営方針（法人の基本とする考えを実現するための4つの視点）

1. 『笑顔のサービス』 思いやりと感謝の心をもって笑顔で行動
2. 『ご利用者の夢の実現』 自己決定を尊重し、その人らしい自立した生活の実現
3. 『地域貢献』 地域福祉の拠点としての積極的な地域づくり
4. 『成長の実感』 職員一人ひとりが職業人としての成長を実感できる風土づくり

福祉用具導入と研修の経過

1994年開設～

- ・天井走行リフト設置
- ・床走行リフト、スライディングボード等の福祉用具を随時導入
- ・ポジショニンググローブ、スライディングシート
(※個人で購入していた)
- ・介護技術研修等の実施

2015年度～

2017年度

- ・3モーターベッドの随時導入開始
約5割のベッドを3モーターベッドへ変更
- ・スライディングシートの導入

2017年度4月～

6月～

8月～

- ・ポジショニンググローブをケアに関わる全職員に配布
- ・ノーリフティング外部研修(2018年6月まで)
- ・年間4回に分けて、ノーリフティングケアに関する
職場内研修の実施

2018年度4月～

- ・ノーリフティング委員会の立ち上げ

実践のねらい

- ▶福祉用具を活用して、職員が統一したケアができる状態を目指す



- ▶持ち上げない、抱え上げない、引きずらない
介助をするためには積極的に福祉用具を使用する

取り組んだ内容

1

内部研修

2

環境整備

3

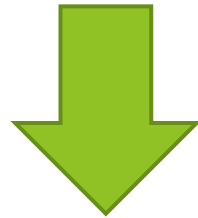
ポスター掲示

4

ご利用者への実践

1.内部研修

- ▶ 入職時の職員、中堅職員、ベテラン職員と分けてそれぞれのレベルに合った研修を行っている。



毎月1回、1時間。3人位に分けて行っている。

入職時の職員

- ▶ 介助する際の姿勢(体重移動)
- ▶ マルチグローブ、スライディングシートを使用しての介助
- ▶ 床走行リフトを使用しての介助(スリングシートの敷きこみ～離床)

入職時の職員



体重移動難しいな〜

中堅職員

- ▶ 3年～5年目の職員
- ▶ 介助する際の姿勢(体重移動)
- ▶ マルチグローブ、スライディングシートを使用しての介助
- ▶ 離床時、車椅子上の座位姿勢(ティルトを使用しての介助)
- ▶ 車椅子上の座位姿勢の修正(マルチグローブを使用して)

中堅職員



腰を奥に入れて姿勢を直しますよ

ベテラン職員

- ▶ 6年以上の職員
- ▶ 介助する際の姿勢(体重移動)
- ▶ 離床時、車椅子上の座位姿勢(ティルト式リクライニングを使用しての介助)
- ▶ 車椅子上の座位姿勢の修正(マルチグローブを使用して)
- ▶ 現場から上がってきたご利用者の介助方法の見直し・検討

A person is lying on a hospital bed, which is tilted upwards. They are wearing blue jeans and dark socks. A green lifting sling is positioned over them, with straps attached to a metal frame above the bed. The person is looking towards the camera with a slight smile. A green speech bubble is pointing towards the person's head.

これは楽で
えいねえ

ベテラン職員

取り組んだ内容

1

内部研修

2

環境整備

3

ポスター掲示

4

ご利用者への実践

2.環境整備

- ▶居室内の整理→作業スペースの確保
- ▶介助度の高いご利用者から、3モーターベッドへの変更を行う。
- ▶年度初めの4月に新しいマルチグローブをケアに携わる職員に配布

使用している福祉用具



天井走行リフト



床走行リフト



スライディング
ボード



マルチグローブ



スカイリフト



スライディング
シート



眠りスキャン

携帯してもらう取り組み



↑ 勤務中に携帯する必要物品

グローブなどすぐに見えるように携帯しています→

※朝礼時に、きちんと携帯しているかの確認も行っています！



その他の取り組み

身体拘束、腰痛予防、両方の視点から全ご利用者ではないがベッド柵を除いた。

安全面を考慮して随時、ベッド柵を除くご利用者の検討を行う。



安全対策委員会との連携でリスク管理を行う。
(ポジショニング方法等の検討を行う。)



介助後はベッドの高さを下げ、
ご利用が安心できる高さに！

体の位置は真ん中から奥に！



取り組んだ内容

1

内部研修

2

環境整備

3

ポスター掲示

4

ご利用者への実践

3.ポスター掲示

中腰姿勢の継続の廃止

ケアの現場では中腰姿勢をよく見かける。
中腰姿勢の継続で腰痛になるリスクが上がる。
5秒以上の中腰姿勢は**ダメ**
(リセットするようにする)



問題です！あなたは分かりますか？

誤

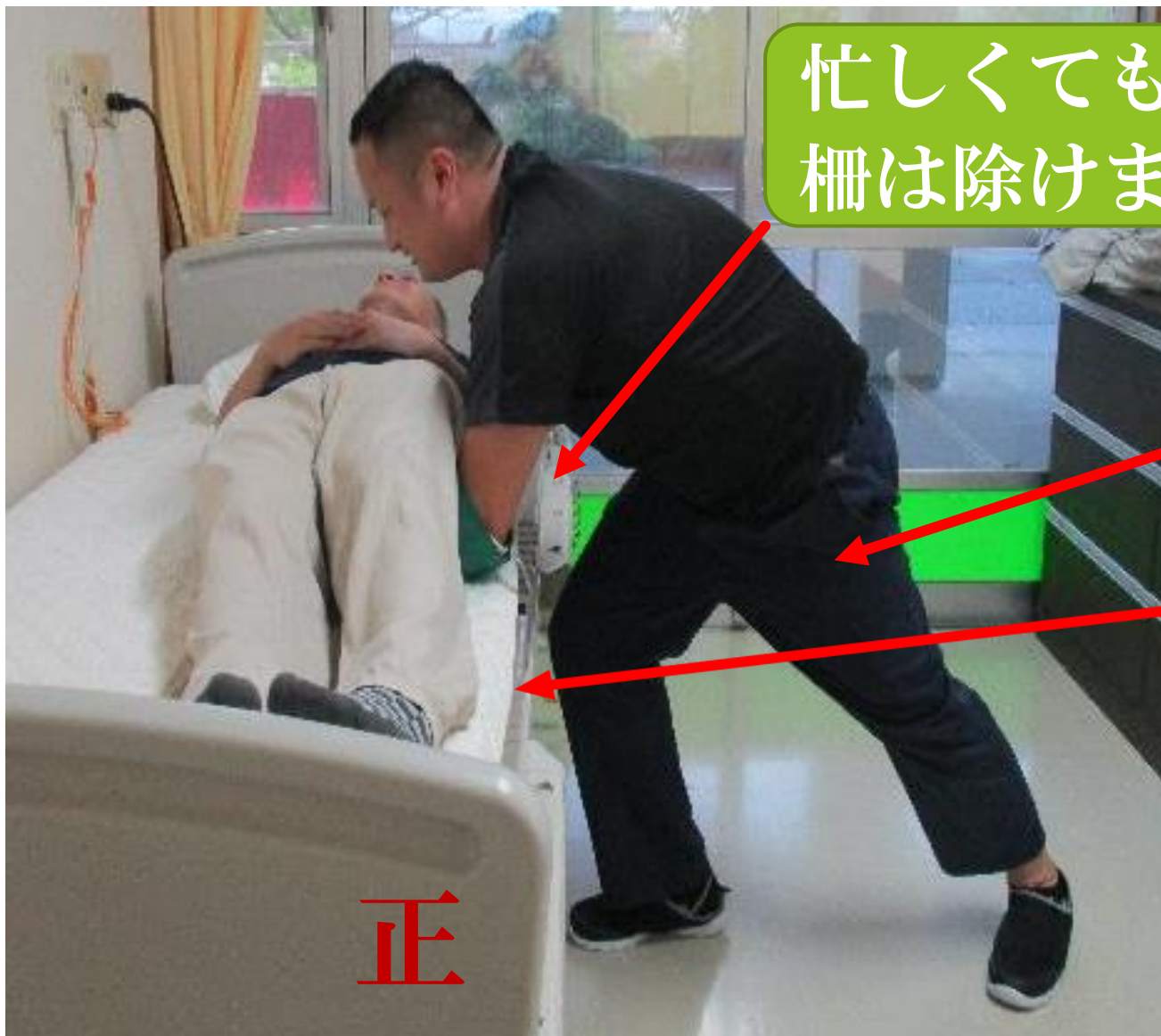


正



日頃間違った介助してませんか？
気軽に自分の介助を振り返ってみて？もしかしたらその姿勢
腰痛の原因になってるかも？！
間違いは3つ！探してみよう ^^
答えが分かった方は、めくって答え合わせだ！！！！！！

体重移動を使っての介助



忙しくてもベッド
柵は除けましょう

重心移動が行える
ような姿勢にしま
しょう

腰が痛くなります
ベッドは自分の高
さに合わせて介助
しましょう

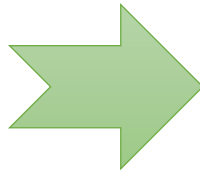
正

3モーターベッドを使用しての介助

こんな介助やってませんか？

え？！楽に移乗できるやああああん

腰のひねり 持ち上げ



ギャッジアップ活用法

取り組んだ内容

1

内部研修

2

環境整備

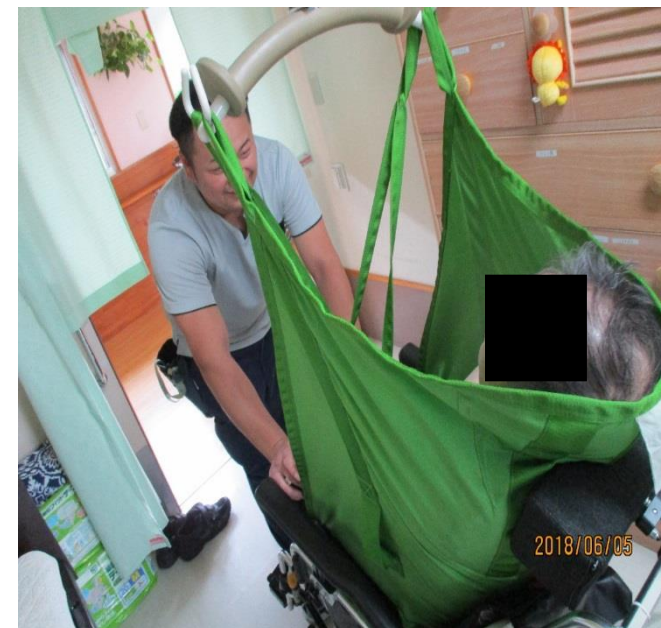
3

ポスター掲示

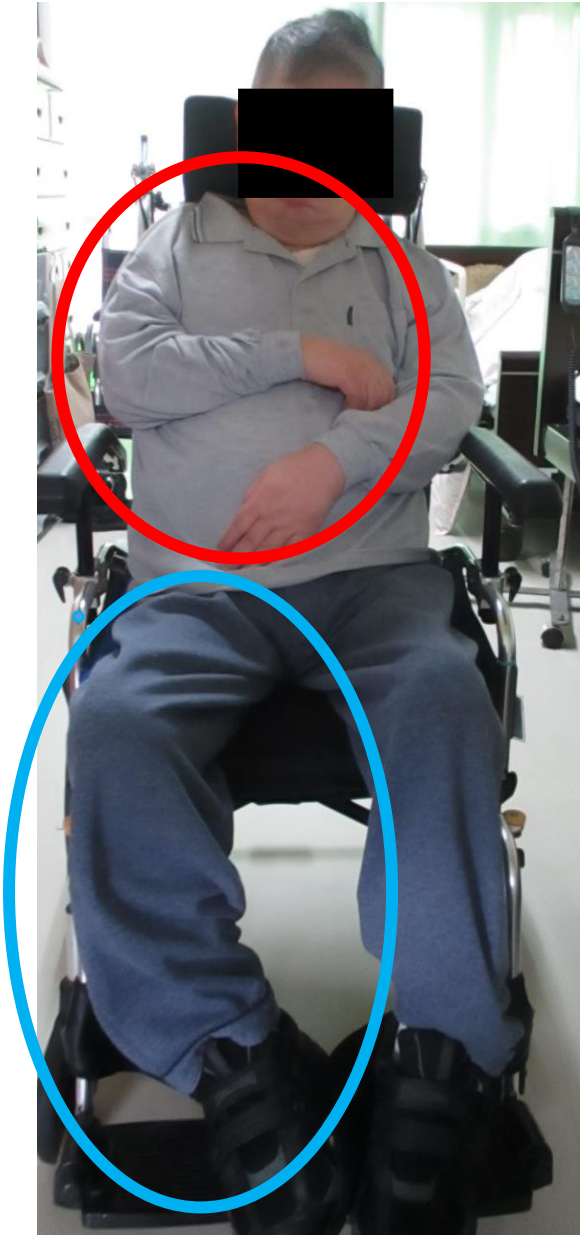
4

ご利用者への実践

推進リーダーから学び、実践した

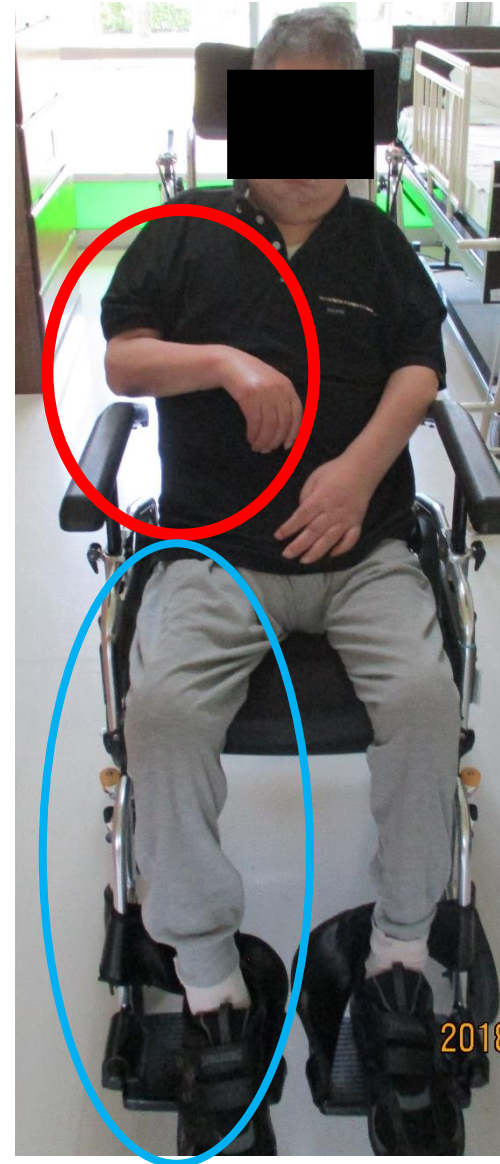
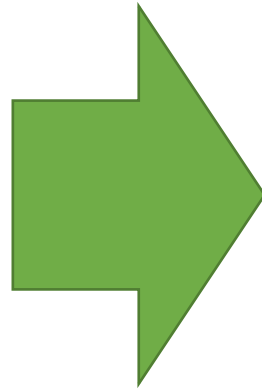


取組結果



緊張によって肘
が曲がっている。

右足が外転し、
足底がついて
いない。



緊張が落ち、
肘と手首が
落ちている

右足が元の位
置に戻り、足底
がついている。

2018

実践の結果

- ▶福祉用具の正しい使用方法を伝えることで性別、年齢、体格の違いは問わず**統一したケア**が実践できるようになってきた。
- ▶ノーリフティングケアを職員に伝えることでご利用者の介助方法の**検討の機会**が増えた。
- ▶ご利用者職員ともに安心して安全な介助ができるようになった。

考察

ノーリフティングの定着を目指して

- ▶ ノーリフティングマニュアルの作成
- ▶ 更なる介助方法、福祉用具の検討
- ▶ ノーリフティングケアを地域へ発信



ご利用者、職員にとって身体
の負担を少なくすることので
きる福祉用具です。

ノーリフティングの定着を目指して

- ▶ ノーリフティングマニュアルの作成
- ▶ 更なる介助方法、福祉用具の検討
- ▶ ノーリフティングケアを地域へ発信

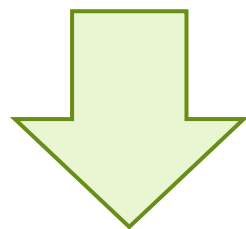


介護に対してのマイナスイメージをプラスへ

ノーリフティングケアを実践



職員が安心して働ける職場
腰痛保持者でも仕事が続けられる職場
ご利用者の二次障害を発生させない



笑顔で暮らす明るい未来

ご清聴ありがとうございました